

|             |   |
|-------------|---|
| 1 審議会名      | マルチメディア情報センター運営審議会  |
| 2 日時        | 平成29年2月17日 午後3時30分から午後5時30分まで   |
| 3 会場        | 市役所本庁舎 5階 第3委員会室  |
| 4 出席者       | 高橋進会長、清水貞男副会長、内久根節委員、沓掛瑞穂委員、佐藤宏委員、三溝清祥委員、敦賀由美子委員、西入幸代委員   |
| 5 市側出席者     | 母袋市長、宮川総務部長、清水広報情報課長、佐野広報情報担当係長<br>吉澤広報情報担当係長、松尾主事、井戸マルチメディア情報センター事業所長                                |
| 6 公開・非公開    | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者       | 2人 記者 2人  |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成29年2月20日  |
| 協 議 事 項 等   |   |

|   |
|---|
| 1 開 会   |
| 2 市長あいさつ  |
| 3 委員紹介  |
| 4 事務局紹介   |
| 5 諮 問 (母袋市長)<br>「上田市マルチメディア情報センター事業のあり方について」(別紙)  |
| 6 会長あいさつ  |
| 7 議事  |
| (1) これまでの経過等について  |
| (2) 事業及び施設の運営状況について (一括議題)  |
| (委 員) 収支状況について、収入に対し経費が多いと思うが差額はどのようにしているのか。  |
| (事務局) 上田市は、委託費と施設維持費あわせて76,183千円を支出しているのに対して2,188千円を収入している。差額は市の支出となる。  |
| (委 員) 実績統計について、マルチメディア情報センターだけの数字だけ見ても判断できない。市全体の人材育成・啓発施設の中での相対的なパーセンテージなどの位置づけはあるか。                                   |
| (事務局) パソコン講座・セミナー等は、公民館・図書館等でも同様に事業を展開している。また、パソコン教室は民間で行われている部分もあり比較することはむずかしい。  |
| (委 員) 高度で専門的な知識・技術を有する人材を継続的に配置し、地域の歴史発信や知識・技術の集積により上田市が得てきたものは非常に大きいと思う。実績の数字には出てこない、マルチメディア情報センターが果たしてきた意味を加味して審議したい。 |
| (委 員) 当初投入したハード面の設備、また、運営面において、どのように変遷しているのか。   |
| (事務局) 平成18年に条例を見直したタイミングで、デジタルファクトリー機材の更新を終了した。当初から事業内容を変更し、学校の教材やネットワークといったものに予算を振り分けるように変遷している。                       |
| (委 員) 信州国際音楽村に当時あったマルチメディア研究センターとは関連しているか。  |
| (事務局) 当時、情報化社会を目指す中で、国の施設としてマルチメディア研究センターが設立され、民間事業者や自治体に対して、情報化社会を築く役割を先導的に担った。それに対し上田市も                               |

そうした気運をつくる必要があるとし、あわせて工業団地を整備し研究開発型企業を誘致しようという県の政策とも相まって、産業再配置補助金という国の制度や、県においてもモデル的な事業として補助金を設置してマルチメディア情報センターを設立した。

(委員) 学校現場においても直面する課題がある。個人情報のデータベース化とその漏えい、新学習指導要領に対する教材研究、SNS を使ったいじめなど情報モラルに関する問題であり、これらの解決が必要となっている。

(会長) 情報関係は本当に幅が広く、何をどこが担うのかきちんとできている自治体は少ないのではないか。マルチメディア情報センターが担っている事業はこの先どう形づくっていくのかという問題が出されているように思う。

### (3) 事業見直しの方向性について

(委員) 財政的に大変だという状況は誰の目にも理解できる。箱物とノウハウを分けて考えるべきである。全国的にもマルチメディア情報センターがクローズする中、箱物としてのマルチメディア情報センターは必要ないと思う。一方で職員のもつノウハウは貴重である。例えばプログラミング教育の面で主体的に学校現場のサポートを行うなど、これまで培ったノウハウを活かして欲しい。いずれにせよ、箱物とノウハウを分けて議論するべきである。

(委員) ノウハウについて、学校における IT 環境のハード面が整った段階で、教育のコンテンツに参画していただけるのは教育現場としてもとても助かる。

(会長) 教育に関する支援については、教育委員会との連携が必要であると思われる。先ほどからの議論では施設自体の維持は難しいようであるが、今まで培ってきたノウハウに相当する、センターの事業の内容について議論して方向性を出したい。

(委員) 上田市以外で開設された他のマルチメディア情報センターは大学などの機関の一部に設置されており、独立した箱物として施設を持っているのは上田市のみであるため、他の例と比べて収束しにくい部分がある。ただし、他のセンターも単純に閉鎖したわけではなく、ノウハウ的なものは今も活着していると思われる。また、以前からホールの維持は重荷になると言われて来ており、ホールは早めに収束するべきである。その他の部分は、現状維持することも検討できるが、機能を他に移すとしても、移転先が問題になるうえ、センターが保有する資料等の財産の保管も含めて検討しなければならない。

(事務局) 例えば、デジタルアーカイブなどの蓄積されているデータをどう管理していけば良いのかなどについては、実際のところサーバーの設置場所等の問題は大きな問題ではないと思われる。管理する場所よりも、その蓄積されたデータをどの組織が管理して情報発信等に活用して行かれるのか、市か事業団かまたは民間か、そうしたことも含めて検討してほしい。

(委員) 未来を見据えて施設の維持を考えたとき、これまで相当に役割を果たしてきており、それを整理するタイミングではないかと思う。例えば、今の子どもたちが社会に出るときに、ある程度の情報リテラシーが求められるが、マルチメディア情報センターが市民の情報リテラシーの向上に取り組んで来たノウハウや知識を残しながらも、他の機関あるいは民間等に分散できるのではないか。どう整合性を取るかの問題は置いて、方向性としてはクローズに賛成したい。

(会長) 次回は議論を少し分けて、ノウハウの辺りを中心に審議をしたい。今後、方向性が見えたら答申案もまとめたい。

### (4) 今後の審議予定等について

(事務局) 次回審議は3月27日を予定して調整したい。

28広情第305号  
平成29年2月17日

マルチメディア情報センター運営審議会  
会長 高橋進様

上田市長 母袋創一

上田市マルチメディア情報センター事業のあり方について（諮問）

上田市マルチメディア情報センターは、高度情報化社会に対応し得る人材を育成するとともに、新たな文化の創造と発信を図ることにより、個性的で魅力ある地域社会の形成に寄与することを目的に設置され運営されています。

しかし、平成7年の開所から22年が経過した現在、その間の情報分野の進歩と社会情勢の大きな変化の中、上田市マルチメディア情報センターが進めてきた事業全体について見直しをするべき状況にあると考えています。

つきましては、下記のとおり諮問し、貴審議会の意見を求めます。

記

上田市マルチメディア情報センター事業のこれまでの実績と将来展望を踏まえたうえでの、実施事業及び施設の今後のあり方及び方向性について